

一貫は一兩の1/4ですから、今の金にして約五、六千両
 というところで、これが多を越しては一貫、貸してくれと
 も言えぬようになりす。当時米一石が一兩であつたと
 いう事は、京都博物館所蔵の池大雅(一七二二—一七九六)自
 筆の富士登山日記帳中に、米一升四十文なる條があり、
 一升四十文なら一石は四千文ですから間違ひは無い訳
 ですが、酒は古米米一升酒一升とて、米一升分の代金即
 ち酒一升としたものですから、百文あれば二三本とこ
 か一升徳利も倒れた程で、今関八州取締出役書細書と
 見ますと(文化三年)

一、錢五十四文 手附手代(これは武士)木錢(宿所代)

二、錢二十六文 小者(手下のこ)木錢

三、錢三百文 本馬一疋賒債(これには馬子がへく)

これで見ても、呑んで食つて一晩泊つても百文あれ
 ばまた釣りか来る事になりますから、小判とこす分米
 判や豆銀とて庶民の生活にとつては猶も小判です。
 (住所 大阪市東淀川区木津史下三三六)

書翰

浪速の地大阪より

長谷川 等

昨秋 紅葉にはまだ早かつた十月、府立学校が学校三
 会の主催で近江路の探訪をいたしました。

信濃の里を訪れ、甲斐の里を巡り、紅葉の名所永徳寺
 に詣りました。紅葉には少し早かつたが、近江の国守佐
 々木一族の信仰、建立の様寺で、数々の物語りが伝えら
 れて、大木山をさうです。山の崩崖の上におり、直下
 を愛知川の清流が流れている。この川の清流は、総江の里

がある。この愛知川こそ私が永く開探し求めていた、佐
 伯藩祖毛利高政公の祖先の登祥の地でもある。

田記によれば

世上の治乱興亡の測り難きを、諸侯の運命はとも
 知れぬ果敢ないものとなつた。この悲愴な運命の洞
 巻に巻きこまれたうち、江州愛知郡総江の城主森
 備前守定春もその一人であつた。

元龜元年(一五七二)にも横暴を逞うした僧徒を憎んで、敵山
 の院押した。そのうちに江州観音寺の城主佐々木右
 衛門督義嗣は、観音寺城没落後一族たる総江の城主
 森家と頼んだが、勝つ誇りを織田軍は終に同年(一五
 七二)永祿十一年(一五七二)冬に至り、総江城にひた押しに押退
 つた。

潮の如く押寄せる運命の流れには、如何に力を盡し
 ても防む力は盡きた。落日の徒らに早きを嘆ずる如
 く、総江の孤城も終に天正元年(一五七三)柴田勝家の猛襲
 に、籠城六年(一五七三—一五七九)が消ゆるが如く、終に
 落城に及んでしまつた。宇多天皇以来、湖辺の一角
 に数代覇を唱えた総江一家の、流転の運命はこれが
 と始まつた。

二月に半分ほど書いてやめて放つといだが、探し求め
 ていた総江の里が(一)かり、八日市市の加藤医師(御土
 史家)に出会い、話したが、この総江の里は現在愛知郡愛
 知村となり、森と総江を姓とする村民が多く、由緒ある
 御落であり、大塚が多いと云うことである。森備前守定
 春(高政の父)が重臣赤吉から四千石を賜つたとい
 う大坂の領内に「総江」と名づけられた地も最近まで残つてい
 る。総江川という川筋もあつたが、今は埋め立てられ

てなく方った。移転せられた「天の綱島大長寺」も、
戦災で焼かれて再建されず、その一隅に近松作の戯曲心
春治兵衛の心中物語を伝える比喩塚だけが残っている。
近江の鯉江の里は森が多く、八日市からの沿道は「青
葉三里に四里紅葉」と、新緑と紅葉で名所とされてい
らしい。

今一度探訪する予定。一泊手は三月三十一日晚。

(編者曰) 以上は四月一日消行はがら便り、御が東京安から関連なる文章、

は四月三日消行、板橋郵便通債欄(一)に

○上佐の一条家の滅亡と大友宗麟との関係については、
岩田善市氏の研究の方が詳細をきわめていますのでこ
こでは省略しますが、私はフトしたことから、上佐の
而も宇和島に塚を接する「西土佐村史」を見させてもら
った際、ページをめくる。第一に(5)頁一条家の滅亡の
ことが載っておりしました。

②又その村史の(8)頁に「豊後戸次川の戦」の項があり、
長曾我部元親父子の敵策やら奮戦のイキナツツから、進
言が入れられず、終に島津軍に手痛い打撃をうけ、命
からから日振島に引揚げた(子信親歿死)古記録が三
頁に亘って載っていますが、大友興成記にもよ、小詳細
に載っておるかもしれませんが。調べて下さい。なけれ
ば複写して……(以下用紙が尽きて不明)

(編者曰) ①

よその文献は、郷土の歴史事情がとりあげられてあるが、知
りたてものです。拜見させて下さい。

尚、次は「古部茶屋の美、法興寺三重塔の手前、目のためめ
よう茶屋の花の絵葉書、その遠浅樹(白)に、

菜の花や月夜東に日は西に

大和の春の絵葉書がありましたのでお送りします。
大変でしたね。(編者の交通禍のこと)イヤですネ。

学校における安全教育に打ち込んでいます私には、一
番イヤなことですが、万人が万人その安全への慎重性が
身につく迄教育するより外にない事を結論にしています。
早くよくなられる標造かに祈念しています。

二三日前、私の發察を受けに来た滋賀県人が(か
わてより親善寺城、箕作城、鯉江城などについて手伝つてく
れる方)五月号の歴史読本を手にして来マ。
「出ました出ました、親善寺城の記事が。」

と見せてくれました。見るとその外に、郷里関係の記事
が二三件のつていますので、走つて百貨店にゆき二冊も
とめました。一冊(お手許にも当然と気付きました)が
ご入院中の方(人)にと送りました。もしもおあり
でしたら脇の高野さんなり、平田先生なりに回覧して下
さい。

大阪の古地図元禄時代の二種手に入りました。それ
には「サイキ」のところは「森」とし、長州の毛利一族
と区別してあります。
どうぞ十分にご静養の程を。

(編者注)

同じ日に歴史読本五月号が送って来ました。お言
葉は僕が先ず拜見、後平田先生をはじめとして回
覧にしました。御厚意、感謝。
この絵葉書と雑誌 四月二十二日落手。

(編者曰) ①

田畑永代売禁令

一身上能百姓は田畑を買取り弥宜成り、身体不成者は田畑
令沽却猶々身上不可成之間、向後田畑賣買可為停止
事。
寛保御詔書集成

(右の禁令をおかした場合は延罰がつづくが紙面余白なきまま割愛)